

ROHM



25

王様の耳はロバの耳

(東ヨーロッパの昔ばなし)

昔あるところに、いつも耳まですっぽりと帽子をかぶっている王様がいて、
一人の若い床屋を呼びつけました。

床屋は、おそるおそる帽子を取りました、すると……。大きなロバの耳が、びょんと現れました。

「この秘密をしゃべったら、おまえの首をはねてしまうぞ!!」しかし床屋がお城から帰る途中で、
街中の者が次々に「王様の帽子の下はどうなっていた?」と、聞いてくるのです。

「しゃべったら、首をはねられてしまう……。」でも、床屋はどうしても誰かに話したくてたまりません。
そこで、野原に大きな穴を掘り、大声で叫びました。「王様の耳は、ロバの耳~! 王様の耳はロバの耳~!」

ところが、数日後、そこから植物の葦(あし)が生えてきて、風が吹くたびに、「♪王様の耳はロバの耳」と、歌い出しました。
噂はアッという間に国中に広がり、王様はカンカンに怒って床屋をお城に来させました。

しかし王様は、国中の者に知れ渡った以上隠していくても仕方がないと思い直し、
「皆の者、良く見るがいい」と帽子を取りました。するとロバの耳は無くなっていました。

完璧な“口どめ”は、王様でも無理でした。

●開き直ることの大切さ。

「王様の耳はロバの耳」は、主に東ヨーロッパに広く分布しています。不思議なことに、朝鮮半島にもそっくりの昔ばなしが伝わっているのですが、日本には、このような昔ばなしはありません。この昔ばなしは、ギリシャ神話の「ミダス王の話」が元になっているようです。昔ばなしでは、最後に王様が開き直ったことによりロバの耳がなくなってしまいます(違う結末のバリエーションもありますが)。これは、「弱点」を隠すことをやめ、さらけだすことによってそれが弱点でなくなるという人生訓を表しているそうです。現代でも、これは言えるでしょう。例えば教育でも、子供に弱点を過剰に意識させるではなく、「別にいいじゃないか」と親や教師が認めてあげることも、必要なことではないでしょうか。

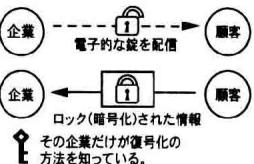
●シーザー暗号って何?

この昔ばなしは、人間は、昔から他人の秘密を誰かに喋らずにはいられない生き物であることを物語っているようです。しかし、際限なく広がっていく情報に対して、それを制限する仕組みも考案されてきました。代表的なものが、暗号化の技術。古くて有名なものにシーザー暗号があります。ジュリアス・シーザー(B.C.102～B.C.44)が使ったとされるこの暗号、ある伝記には「彼はしばしば暗号を用いた。読み取るには、各文字をアルファベットの順で3つ前の文字に置き換えなければならなかった」と記述がある

そうです。「ブルータス、おまえもか」という有名なセリフからも、その状況が想像できますね。では、この暗号にチャレンジしてみてください。
FOHRSDWUD

●現代の秘密を守る仕組み。

身近になった暗号といえば、インターネット・セキュリティです。中でもインターネットショッピング等でクレジットカード番号などを送信するとき、「SSL暗号方式」というものをよく目にします。どんな仕組みなのでしょう? 情報を暗号でやり取りする場合、その情報を



共有する必要があります。例えばシーザー暗号なら、アルファベットを3つ前にずらすという「ルール」がそれ。しかし、インターネットショッピング等の場合、一つの企業が、不特定多数の顧客全員に、「同じ鍵」を渡すことは大変危険です(盗用・流用されやすい)。そこで、SSL方式では発想を変え、例えるなら電子的な南京錠のようなものを顧客に配ります。これで顧客がカード番号等の情報をロックして送れば、それを見られるのは唯一の「鍵」を持った企業だけということになるのです。でも、昔ばなしの床屋の叫びには、鍵も錠も掛けられなかったようです。

昔ばなし監修／昔ばなし研究所 所長 小澤俊夫
取材協力／奈良先端科学技術大学院大学 横島一

【暗号の答え】CLEOPATRA (クレオパトラ)

ローム株式会社
www.rohm.co.jp

本社 / 〒615 8585 京都市右京区西院溝崎町21
TEL(075)311 2121 FAX (075)315 0172
<http://www.rohm.co.jp/>

ゆめがあふれるあしたのために、LSIのロームです。

第24話へ

第26話へ